

JAPANESE EXAMINED UTILITY MODEL PUBLICATION
NO. SHO 58-14889

PUBLICATION DATE: March 25, 1983
APPEAL NO. SHO 55-22674
APPLICATION NO. SHO 51-48434
APPLICATION DATE: April 18, 1976
JAPANESE UNEXAMINED UTILITY MODEL PUBLICATION
NO. SHO 52-141477
DATE: October 26, 1977

TITLE OF THE DEVICE:

CASE CAPABLE OF EXTRUDING STICK-SHAPED CONTENTS

CLAIM:

A case capable of extruding stick-shaped contents comprising:
a rotary member 7 having a top wall 12, a screw shaft 13
uprightly projecting from a center of the top wall 12, a grip tube 8
downwardly extending from a peripheral edge of the top wall 12, and a
first engaging means provided on an upper portion of an outer periphery
of the grip tube;

a container tube 1 for containing a stick-shaped products having
a second engaging means provided on an lower portion of an inner
surface of the container tube to be unremovably engaged with the first
engaging means, and a first rotation restricting means longitudinally
extending on an inner surface of the container tube, the screw shaft 13
being freely inserted into the container tube, the lower portion of the
container tube being rotatably engaged around the upper portion of the
outer surface of the grip tube 8; and

a carrier plate 2 being screwingly engaged with the screw shaft so
as to be longitudinally movably fitted into the container tube, the carrier
plate having a second rotation restricting means provided on an outer
periphery of the plate to be engaged with the first rotation restricting
means, the screw shaft having a bottom portion formed to have a
diameter substantially slightly larger than an inner diameter of a lower
portion of a screw hole of the carrier plate.

⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭 58-14889

⑤ Int.Cl.³
A 45 D 40/02

識別記号 庁内整理番号
6671-3 B

②④公告 昭和 58 年 (1983) 3 月 25 日

(全 3 頁)

1

2

⑬ 棒状被収納物の押出し容器

審 判 昭 55-22674

① 実 願 昭 51-48434

② 出 願 昭 51(1976)4 月 18 日

③ 公 開 昭 52-141477

④ 昭 52(1977)10 月 26 日

⑦ 考 案 者 遠藤 修三

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株
式会社吉野工業所内

⑧ 出 願 人 株式会社吉野工業所

東京都江東区大島 3 の 2 の 6

⑭ 実用新案登録請求の範囲

頂壁 12 の中心から螺棒 13 を起立させると共に、頂壁周縁からつまみ筒 8 を垂設させ、該つまみ筒の上部外面には第 1 係合手段を周設させた回転体 7 と、上記第 1 係合手段に、筒部の下端部内面に設けた第 2 係合手段を拔出し不能に係合させて、かつ筒部内に螺棒 13 を遊挿させて、つまみ筒 8 の上部外面に筒部下端部を回転可能に嵌合させ、又筒部内面には第 1 回転阻止手段を縦設させた棒状品収納用の収納筒 1 と、上記螺棒に螺合させると共に、上記第 1 回転阻止手段に係合する第 2 回転阻止手段を外周部に設けて、上記収納筒に対して上下動可能に嵌合された受皿 2 と、からなり、上記螺棒の基部外径を、受皿螺孔の下部内径よりも、実質的に僅かに大きく形成させた棒状被収納物の押出し容器。

考案の詳細な説明

本案は、口紅その他の化粧品、或いは接着糊等棒状被収納物の押出し容器に係る。

従来この種容器で受皿螺孔に回転体の螺棒を螺合させたものは、被収納物の押出しを容易にするため、出来るだけ回転体を回し易くしてある。消費者にとって被収納物の押出し、ないしは操出しが容易であることは、極めて便利であるが、あまり操

出しを容易にすると困る問題もあつた。つまり該押出し容器の流通過程等において、震動等によつて被収納物が押出され、すると被収納物先端がキヤツプ頂壁の内面に突当り、そのため被収納物の先端面形状が損われることがあつた。

本案は諸欠点を除去したもので以下図面について説明すると、7 は螺棒付きの回転体である。該回転体は、頂壁 12 中心部から螺棒 13 を起立させると共に頂壁周縁からはつまみ筒 8 を垂設させたものである。該つまみ筒は、上部を小径部 9、中間部を中径部、下部を大径部にしてもよい。上部外周には、第 1 係合手段としての凹溝が周設させてある。該凹溝上方の小径部外周部分 14 は、下方を大径とするテーパに形成させてある。

上記回転体つまみ筒の上部外面には、収納筒 1 の下端部を回転可能に嵌合させる。図示例では収納筒の下端部内面に第 2 係合手段としての内向きフランジ 10 を付設させ、該フランジのフランジ孔 11 内につまみ筒小径部 9 を強制嵌合させ、第 1、第 2 係合手段の係合によつて収納筒の拔出しを防止させてある。又収納筒の筒部内面には、第 1 回転阻止手段としての係合凹溝 3、3 が縦設させてある。該凹溝は、後述受皿の回転を阻止するためのもので、凹溝に代えて突条又は収納筒の筒孔を非真円にしてもよい。

上記収納筒内には、受皿 2 が嵌合させてある。該受皿は、既述螺棒に螺合させた螺筒 5 の上部外面から外向きフランジ状部を突出させ、該フランジ状部外周から周壁を起立させてある。該周壁外面には、上記第 1 回転阻止手段に係合して上下動だけ可能とする第 2 回転阻止手段 4 を設けておく。17 は被収納物充填を容易とするための空気抜き孔で必要により外向きフランジ状部に設ける。被収納物は、加熱による熔融状態で受皿上方の収納筒 1 内に流し込みされるが、空気抜き孔が小孔で、かつ受皿に触れると同時に冷却されて凝固を始めるため、空気抜き孔から洩れるおそれはない。上記

流し込みにより、受皿よりも上方の螺棒部分は被収納物中に埋設されることとなるが、凝固の際の体積縮小によつて、被収納物は螺棒および収納筒内面から離れ易くなり、収納筒 1 を持ち、つまみ筒 8 を正方向に回すと、受皿と共に被収納物は上昇し、又逆方向に回すと下降する。受皿のめねじ 6 は螺筒 5 筒孔の全体にわたつて設ける必要はなく、図示のように筒孔を長くした場合は、その下半部だけに設けてもよい。

以上構成において、螺棒 13 の基部 13' のおねじ径 L を該基部を除く螺棒部分のおねじ径よりも、受皿 2 の締付けが可能な程度で大径とする。該大径としたおねじは、受皿螺動に際しての摩擦抵抗を大とするために設けたものであり、おねじに代えて第 2 図が示すように鐮状部 15 を付設させ、かつ受皿螺孔の下端部内面にその鐮状部外面に圧接する内壁面 16 を形成させてもよく、又第 3 図、第

4 図が示すように相互の壁面から他方壁面に圧接する突片 15'、16' を突出させてもよい。これ等は、つまみ筒を多少回すと直ちに外れるよう設けるとよい。

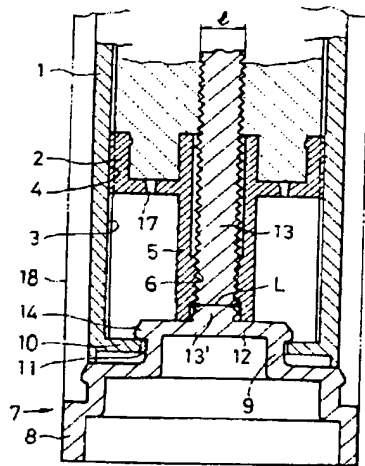
5 本案は上記構成としたから、受皿 2 を螺棒基部まで下降させておけば、震動等によつて受皿が弛み、収納筒に対して上動することなく、よつて始めに述べたような欠点を生ずることがなく、又螺棒基部以外の上方部分では、摩擦抵抗を減少できるから被収納物押出し、引込みの操作が容易となる効果がある。

図面の簡単な説明

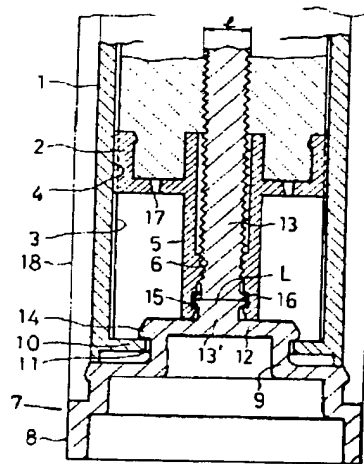
第 1 図は本案容器要部の縦断面図、第 2 図は他実施例で示す要部の縦断面図、第 3 図は更に他実施例で示す要部の縦断面図、第 4 図は第 3 図 IV—IV 線の横断面図である。

7……回転体、1……収納体、2……受皿。

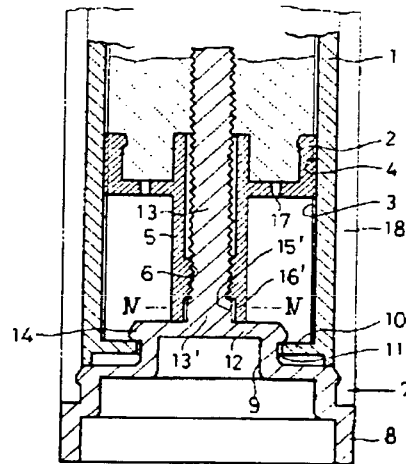
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

